

ね、この本よんだ？



2017年度



図書館で発行している『とよかん通信』でご案内した
「あたらしい子どもの本」のリストです。

絵本、読みもの、テーマ本の三つの柱にわかれた
ブックガイドとなっています。

紹介した本は、図書館で貸出ご利用いただけます。

このリストが、子どもたち、そして大人のみなさんにとっても
素敵な本との出会いのきっかけになりますように。



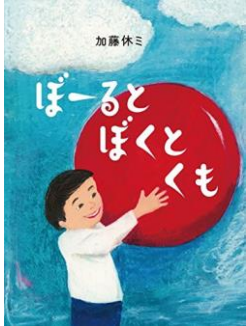
久留米市立中央図書館



えほん(日本)

『ぼーるとぼくとくも』

加藤休ミ/作
風濤社



おおきなあかいぼーるをみつけたぼくが、いえにもってかえろうとしっかりつかんでいたら、かぜでぼーるといっしょにそらへうかんでしまった。するとくもがはなしかけてきて…。
次々と形を変える雲と遊びながら、こっそりお母さんのところへ戻ったぼくとぼーる。思いっきり遊ぶ姿が読んでいて気持ちのいいおはなしです。

『へたなんよ』

ひこ・田中/文
はまの ゆか/絵



おかあさんは「へたなんていうたらアカン」とおこるけど、おばあちゃんは耳がとくて電話できくのがへたなんよ。せやからわたしがきて、おしえるの。

おばあちゃんの衰えたところは孫娘の「わたし」がかわりにしています。だって、わたしにもへたなことがあるから。

だれかのために、自分のできることをするという優しい気持ちが伝わってくる絵本です。

『ペンギンかぞくのおひっこし』

刀根里衣/作
小学館



ペンギンの家族は、すてきな場所を探してお引っ越しすることにしました。それは、地球がどんどんあたたかくなって、氷のおうちが狭くなってきたからです。「もっと素敵な場所がきっとある。」つるつるの氷のお船に乗って出発進行!!ペンギンの家族はどんな素敵なおうちを見つけるのでしょうか。地球温暖化や温室効果ガスなど、環境について考えさせられるおはなしです。

『もりのとしょかん』

ふくざわゆみこ/作・絵
学研プラス



本が好きなふくろうさんの家には、すてきな本がいっぱいあります。でも、ふくろうさんの家は森の奥にあって、お客さんは誰もきません。ところがある日、森に迷い込んだ、うさぎの子ときつねの子がやってきました。

それから毎日、ふたりはふくろうさんの家に本を読みに行くようになって…。森に図書館ができるまでの、あたたかいお話です。

『お化けのおもてなし』

川端 誠/作
BL出版



お化け屋敷のお化けたちのところに、座敷わらしからお化け郵便がとどきました。一週間後に座敷わらしと袖ひき小僧が遊びに来ることが決まって、お化けのみんなは大喜び。「さて、何でもてなそうか」「やっぱり、あれだね」「あれだろうね」

全員一致で決まったのは…。さて、お化けたちは何でおもてなしするのかな?夏にぴったりのお話です。

『かえるのラミー』

はせがわ さとみ/作
BL出版



お月さまがきれいな夜、かえるのラミーは公園を散歩しながら宝探しをしています。

いつものように宝物を探していると、ブランコの下で泣いているちいさな人形に出会いました。持ち主の女の子に忘れて置いていかれたと言う人形のために、ラミーは自分の宝物を使って女の子の家を探すことを決めました。

はたしてラミーは無事に女の子の家を見つけることができるのでしょうか?

『ブタのドーナツ屋さん』
谷口 智則／作
小学館



ブタのドーナツやは、ドジでおっちょこちよいでわすれんぼうです。いつもはダラダラと過ごしていました。

しかし、ある日、店の電話が珍しくなります。ブタはたくさんのドーナツの注文を最後までできず、電話をきりました。そして、あわててたくさんのドーナツをつくり、急いで出発しました。

はたして、ドジでおっちょこちよいでわすれんぼうのブタは、ぶじにドーナツを届けることができるでしょうか。

『コリスくんのかみひこうき』
刀根 里衣／作
小学館



コリスくんは、かみひこうきを作るのがだいすき。いつもひとりでかみひこうきを作っています。

コネコくんは、コリスくんのかみひこうきを飛ばして遊ぼうと誘いますが、コリスくんはかみひこうきが壊れたらいやだから、といつも断っていました。

ある時、コリスくんのかみひこうきが風に飛ばされてしまいます。

かみひこうきは、どこへ行ってしまったのでしょうか？

『チューリップ畑をつまさきで』

山本容子／作
偕成社



チューリップの妖精シンシアとチューリップの女王ラーレが森にやってくると、春です。

チューリップたちは起きだし、歌いながらお散歩をはじめます。球根のこどもカオリとバナナも春を待っていましたが、鳥にさらわれて遠い異国に連れていかれます。

そこで二人は、チューリップがみんなをしあわせにできるひみつを知ることにになりました。

『パパゲーノとパパゲーナ』

小西 英子／作
福音館書店



森の人気者、笛吹きのパパゲーノはお嫁さんが欲しいといつも独り言のようにつぶやいていました。そこへ、見慣れぬ鳥がパパゲーノへ“森の王には美しい娘がいる”と知らせに来ます。パパゲーノは勇んで森の王に会いに行き、娘のパパゲーナに会わせてほしいと頼みますが…。

モーツァルトのオペラ『魔笛』に登場するパパゲーノを主役にした絵本。

『まほうの絵本屋さん』

小手鞠るい／作
高橋克也／絵
出版ワークス



ある日、女の子がいつもの公園で遊んでいると不思議なフクロウに出会いました。「おいで、おいで、こっちへおいで。素敵なお店へ案内するよ」というフクロウの声に導かれて森に入ると、そこには一軒の絵本屋さんがありました。黒猫の店員さんが選んでくれた絵本を開くと、そこは女の子が夢見た世界で…。願いがかなう不思議な絵本屋さんのおはなしです。

『もりのちいさなしたてやさん』

こみね ゆら／作
風濤社



森の奥にあるちいさな家で、ちいさなちいさなこびとの三人姉妹が、したてやさんをひらいていました。森の向こうにはにんげんの町があり、お姫様が住んでいるお城もあります。ある日、したてやさんは、お姫様のお誕生日パーティーのドレスを作ってほしいと頼まれます。ふわふわの美しいぬのを、お花もようの刺繍で飾って…。お姫様は、気に入ってくださるかしら？

えほん(海外)

『レッド あかくてあおいクレヨンのはなし』

マイケル・ホール／作

上田勢子／訳

子どもの未来社



クレヨンの子どものレッドは、赤いラベルを着ていますが実は青色のクレヨンでした。家族や先生や友達のクレヨンは、レッドに赤い絵を描かせようと必死になりますが、レッドが描く絵はすべて青。自分の本当の色は何なのだろう？

レッドの本当の色にみんなが気づいて認めてくれるまでを描いた絵本です。子どもから大人まで年齢を問わず楽しめる1冊です。

『わたしだけのものがたり』

パメラ・ザガレンスキー／作・絵

フレーベル館



あるところに、エミリーという本が大好きな女の子がいました。学校の教室で見慣れない本を見つけたエミリーは、先生にその本をかしてもらいます。ところが、家に帰って読んでみると、その本には全く言葉がありませんでした。エミリーが悲しんでいると、物語を想像してみても、というささやき声が聞こえてきて…。あなたも、女の子と一緒に自分だけの物語をつくってみませんか？

『イードのおくりもの』

ファウズィア・ギラニ・ウィリアムズ／文

プロイティ・ロイ／絵 前田 君江／訳

子どもの未来社



明日はイード。ラマダン月が明けのお祝いのお祭りです。くつやさんのイスマトは、イードをむかえるために家族へのおくりものと一緒に、あたらしいズボンを買いました。だけど、ずぼんのすそが、ゆび4ほんぶんながくて…。イードを楽しみにする人々にぎわいと、家族を思いやる気持ちのつまった一冊です。

『アントワネット』

わたしのたいせつなさがしもの』

ケリー・ディプッチオ／文

クリスチャン・ロビンソン／絵

木坂 涼／訳

講談社



アントワネットはブルドックかあさんの4匹の子犬の1匹。アントワネット以外の3匹は、それぞれ得意なことがあります。それは、かきこいこと、走ること、そして、力持ちなことです。しかし、アントワネットは何が得意か分からず、不安に思っていました。

はたして、アントワネットの得意なことは見つかるでしょうか。

『あめのひ』

サム・アッシャー／作・絵

吉上恭太／訳 徳間書店



朝、目が覚めると、雨が降っていた。おじいちゃんは「うちにいなさい」って言うけれど、ぼくは雨の中で遊びたくてたまらない。雨の粒を口でうけたり、水たまりにパシャーンって飛び込んだりしたいんだ。

でも、おじいちゃんは「雨がやむまで待ちなさい」って。雨、やまないかな。雨の日を楽しむ気持ちを描いた、わくわくする一冊。

『ぼくのつばさ』

トム・パーシヴァル／作

ひさやま たいち／訳

評論社



主人公のノーマンは、ごく普通の男の子です。ところが、ある日ノーマンの背中につばさが生えてきました！自分につばさが生えるなんて思ってもみなかったノーマンは、うれしくなって鳥のようにあちこち飛びまわります。しかし、つばさが生えたことを、パパにもママにも、友だちにも言い出せません。つばさを持ってしまったノーマンがたどり着いた答えは…。

『夢の川』

トム・パーシヴァル／作
海都 洋子／訳
六耀社



“川は、わたしをどこへつれていってくれるでしょう”部屋の窓から見える川は少女をさまざまな場所へ連れて行ってくれます。大きなビルが立ち並び車で溢れかえる都市、黒煙を噴き上げる工場地帯、そこからだんだんと景色は変わりパッチワークキルトのような美しい畑や緑豊かな土地へと進んでいき…。

落ち着いた色味と詩的な言葉で読み手を小さな旅に連れ出してくれます。

『こらっ、どろぼう！』

ヘザー・テカヴェク／作
ピエール・プラット
なかだ ゆき／訳
きじとら出版



ある日飼い主より、食べ物や煙から盗むやつを全部食べられる前に捕まえてくれと、主人公マックスは頼まれます。マックスはロープをくわえてまずはにんじん畑へ。すると、にんじんの葉っぱを食べている虫がいました。「こらっ、どろぼう」と声をあげロープを投げますが、逃げてしまいました。果たして、マックスはどろぼうを捕まえることができるのでしょうか。

『クマと森のピアノ』

デイビッド・リッチフィールド／作
俵万智／訳
ポプラ社



こぐまのブラウンは、森のなかでへんでこなものを見つけました。触ってみると、きいたことのない音がします。ブラウンはそのへんでこなものと仲良くなり、すてきなメロディを鳴らせるようになりました。ある晩、そのへんでこなものはピアノといって、ピアノから出る音は音楽だと教えてもらいます。ブラウンは、音楽をきいたりピアノをひいたりするために、遠い街へ行くことにしましたが…。

『きのうえのおうちへようこそ！』

ドロシア・ウォーレン・フォックス／作
おびか ゆうこ／訳
偕成社

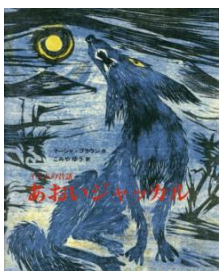


ツイグリーさんは、ニャンコという名前の犬と木の上のおうちで暮らしています。人に会うのがちよっぴり苦手なツイグリーさんは誰かが訪ねてくると隠れてしまうけど、毎日すきなことだけをして過ごしていました。しかし、町におおきなあらしがやってきて、無事だったのはツイグリーさんの木の上の家だけ。

さて、ツイグリーさんがとった行動とは？

『あおいジャッカル インドの昔話』

マーシャ・ブラウン／作
こみやゆう／訳
瑞雲舎



町のはずれのはげやまに“あらぼえ”というジャッカルが住んでいました。ある日、あらぼえは食べ物を探しに町へ出かけましたが、町の野良犬たちに追い回されてしまいます。逃げたあらぼえは身を隠すために染物屋のおおがめに飛び込み一晩過ごすことに。翌朝おおがめから出てきたあらぼえは姿がすっかり変わっていて…。世界最古の寓話集から生まれた絵本です。

『子ネコのスワン』

ホリー・ホビー／作
三原 泉／訳
BL出版



あれ？ ママはどこ？ おにいちゃんやおねえちゃんは、どこにいったの？ 野良の子ねこがめざめると、ママたちがいません。そこで、ママたちを探すことにしました。しかし、もうだめだと思ったその時、知らない人たちが助けてくれました。その後、新しい家族に出会い、仲間になってやさしい家族といっしょに幸せに暮らしました。どんな楽しい一日が待っているのでしょうか？

読みもの(日本)

『とうちゃんとユーレイババちゃん』

藤澤ともち／作
佐藤真紀子／絵
講談社



小学六年生の優也は、お母さんと、とうちゃんと、優也にしか見えない祖母のユーレイ、ババちゃんと一緒に暮らしている。とうちゃんは、実は優也の父親ではなくお母さんの兄で、名前が「透也」だからとうちゃん。

毎日を楽しみ過ぎていたけれど、突然母親が結婚すると言い出して…。優也と透也をとりまく人々の、笑顔と涙の物語です。

『ふたリユースケ』

三田村信行／作
大沢幸子／絵



ぼくの名前は小川ユースケ。引っ越してきた町でみんなの視線がぼくに集中している。

なぜかという、ぼくが町の伝説の神童、大川ユースケとそっくりだったから。

最初は神童の生まれ変わりだと思われて悪い気分はしなかったけど、ぼくに対する〈大川ユースケ化計画〉が始まって、だんだん息苦しさを覚えるようになったとき、ふっとだれかの気配を感じた…。

『大林くんへの手紙』

せいのあつこ／著
PHP研究所



文香は読書感想文や作文は苦手。ウソの作文ならすらすら書けるけど、その中にわたしの気持ちを書いた文章なんてひとつもないと思っている小学六年生。

ある日、クラス全員で学校にこなくなった大林くんへ手紙を書くことになり、文香は迷ったすえに一行だけ「いつかちゃんとした手紙を書きます。」と記す。大林くんへ文香の声はとどくのでしょうか。

『明日のひこうき雲』

八束 澄子／著
ポプラ社



単身赴任の父にうつ病の母、年の離れた幼い弟。複雑な家族の問題を抱えて、少しひねくれてしまった少女、遊。

そんな彼女が、ある日、生まれて初めて恋に落ちた。それから少しずつ、恋に友情に前向きな気持ちが、彼女の生活をも変えていき…。

14歳の少女の素直な気持ちが、まっすぐ伝わる青春小説。

『きらきらシャワー』

西村 友里／著
岡田 千晶／絵
PHP研究所



主人公の広矢は、幼稚園にはないプールのシャワーが、冷たく激しくできるので好きです。また、公園で出会ったアリも好きです。

しかし、このアリとの出会いによって広矢はひとまわりお兄さんになった気がしました。いったい広矢になにがおこったのでしょうか。

子ども心を丁寧に描いたお話です。

『ホテルやまのなか小学校』

小松原 宏子／作
亀岡 亜希子／絵
PHP研究所



やまのなか小学校の卒業式から三か月後、ミナさんはまた小学校にもどってきました。百年続いた小学校は、ミナさんたちが卒業して廃校になり、古い校舎は深いねむりに覆われているように見えます。学校の校舎は住むために作られたわけではないけれど、誰かに使ってもらったほうがうれしいと思ったミナさんは、学校をホテルにすることにしました。

さて、どんなお客さんがやって来るでしょうか？

『わたしの苦手なあの子』

朝比奈 蓉子／作
酒井 以／絵
ポプラ社



ミヒロは小学六年生の女の子。一週間前にクラスに転校してきたリサは、ツンとすまして誰とも仲良くなろうとしない。

しかし、ミヒロはあることをきっかけにリサの秘密を知ってしまい、リサをほおっておくことができない。仲良くなりたいのに方法がわからないミヒロ。過去の友達との関係に苦しむリサ。

二人の女の子の思いが交互に織りなす成長と友情の物語。

『ビブリオバトルへ、ようこそ！』

濱野 京子／作
森川 泉／絵
あかね書房



主人公の柚希は、5年生になって憧れの先輩の幸哉くんと同じ図書委員になった。

幸哉君に認められたい柚希は、好きな本を紹介して投票する図書委員会のイベント“ビブリオバトル”に挑戦することに。

バトルに勝つことだけを考えていた柚希だが、ビブリオバトルを通じてたくさんの本に出会う中で少しずつ考えが変わっていきます。

『てんこうせいにはワニだった！』

おのりえん／作・絵
こぐま社



1年生のクラスに、ある日転校生がやってきました。名前はワニ目アリゲーター科の『ワニくん』。おおきなワニくんは先生もクラスメイトもびくびくしながら自己紹介を終えると、授業を受けるために椅子に座ろうとします。しかし、椅子が小さすぎてワニくんは座れません。

果たしてワニくんは無事に一日過ごすことができるのでしょうか。ドキドキワクワクするおはなしです。

『ほっとい亭のフクミちゃん』

—ただいま神さま修行中—

伊藤 充子／作
高谷 まちこ／絵
偕成社



あまりお客がこないおべんとうやさんの〈ほっと亭〉は、町の人から〈ほっと亭〉とよばれています。

ほっと亭をひとりできりもりしているハルさんのところに、福の神修行中のフクミちゃんという女の子がやってきました。おとものネズミのスアマも一緒です。

フクミちゃんは、ハルさんの〈ほっと亭〉を大繁盛させることができるでしょうか？

『満月の娘たち』

安東 みきえ／著
講談社



志保は、母親から「足りない」って言葉をよく使われる。「あんたは言葉が足りない」、とか「素直さが足りない」とか。日々起こる出来事の中で、志保は母親の言葉に反発し、少しずつ気持ちがすれ違ったりすることが増えてきた。でもそれは志保だけではなく、幼なじみの美月も同じ。母親の愛情を感じながらも、母と娘という関係に葛藤し成長する少女の物語。

『さよなら、おばけ団地』

藤重 ヒカル／作
浜野 史子／画
福音館書店



結衣たちの住む桜が谷(さくらがや)団地は60年も前にできたとても古い団地です。住む人もだんだんと減って取り壊しも決まっているこの団地は、別名「おばけ団地」とよばれていました。この団地には名前のお通り、すこしこわい話がありました…。1つの団地を舞台に、読んだ後は少しほっこりした気持ちになれる物語が5人の主人公たちで楽しめる本です。

テーマ本

『命の意味 命のしるし』

上橋菜穂子×齊藤慶輔／著
講談社



「野にあるものは、野に帰してやりたい」と野生動物たちの声なき声に耳をすませる獣医師・齊藤慶輔。なぜ、うまれてきたのか。なぜ、死んでいくのか。「なぜ」という言葉で、なぜ思うのか。そのことを物語を描くことで考えている上橋菜穂子。『獣の奏者』の執筆が二人を結び付け、人と人、人と自然との関係をみつめながら命の意味を考えます。

『クララ 300年前にはじめてヨーロッパを旅したサイのはなし』

エミリー・アーノルド・マッカーリー／作
よしいかずみ／訳
BL出版



今から300年前、サイはまぼろしの動物だと思われていた時代に、ヨーロッパ中を旅したサイがいました。名前はクララ。クララは、絵のモデルになったり、詩や歌が作られたり、クララの真似をした髪型やドレスが流行したり、行く先々で人気者になりました。クララと、一緒に旅をしたオランダ船の船長の17年間のおはなしです。

『宿題ロボット、ひろったんですけど』

トーマス・クリストス／作
もりうちすみこ／訳
柴田純与／絵



学校帰りにリヌスがひろったのは、高性能ロボットのオルビー。研究所から逃げ出してきたオルビーは、リヌスの宿題をあっという間に片付けてしまいました。他にも、部屋の掃除にいじめっ子への仕返し、空き巣をやっつけるなどオルビーは大活躍。

でも、研究所や警察、悪者までオルビーを探しています。リヌスは、オルビーを守ることができるでしょうか？

『緑の霧』

キャサリン・ヴァン・クリーヴ／作
三辺 律子／訳
ほるぷ出版



ポリーは魔法の植物が育つ農園に住む女の子。農園では、毎週決まった曜日、同じ時間に雨が降る。それは奇跡の雨といわれていた。

しかし、湖に緑の霧が発生して、穏やかだった日常が狂いはじめる。奇跡の雨は降らなくなり、大好きな叔母が農場を売却する話をすすめるなか、ポリーは大好きな農園と家族を助けるために動き出す。

『どうぶつたちが ねむるとき』

イジー・ドヴォジャーク／作
マリエ・シュトゥンプフオーア／絵
木村 有子／訳 偕成社



どうぶつっていったいどんなふうになむるのでしょうか？1日に16時間ねむるどうぶつや、2時間しかねむらないどうぶつ、くるくるまわりながら海へもぐるどうぶつなど、その種類は様々です。

夜、ねむる前にやさしく語りかけてくれるような文章と、美しい絵で、どうぶつのいろいろなねむり方を教えてください。

『サルってさいこう！』

オーウェン・デイビー／作
越智典子／訳
偕成社



サルってどんな生きものか知っていますか？この本では、住んでいる場所や生活の様子、また、その中で手やしっぽをどのように使うかなどわかりやすく紹介されています。そのほか、サルの種類を紹介しているページには、なぞときもあり、興味を持って読むことができるようになっています。そして、世界一小さなサルと世界一大きなサルの特徴や、サルの中で声・足・しっぽなど様々な一等賞をもつものなど種類豊富に紹介されています。

『ロケット発射場の一日』
 いわた慎二郎／作・絵
 講談社



鹿児島県にある内之浦宇宙空間観測所では、イプシロンロケットの打ち上げ準備が進められています。ロケットの打ち上げには、いろんな工場で作られた部品を組み立てる人や、それを観測所まで運ぶ人、打ち上げの管制官など、たくさんの方が関わっています。ロケット打ち上げの準備から打ち上げ成功までの、ロケット発射場での一日をイラストで再現した絵本です。

『おいしくたべる』
 加藤 休ミ、得地 直美／画
 朝日新聞出版／編著
 朝日出版社



みんな、ごはんをたべるのはすき？ ごはんの時間はたのしい？ この本は、人はどうしておいしいものが好きなんだろう？ どうやって食べたらおいしく感じるんだろう？ そもそも、おいしいってなんだろう？ などのおいしくたべることについての疑問に、さまざまな角度から答えてくれます。たべものから広がる世界で、「おいしくたべる」楽しさをぜひ発見してほしい1冊です。

『わたしがノーベルしょうをとったわけ』
 ナカオマサトシ／さく
 ドーリー／え
 フレーベル館



ある日、女の子は卵のパックの中から1つだけ違う色の卵を見つけました。女の子はふしぎな卵を凶鑑と見比べたり、大きさや重さを測ったりしながら、何か生まれてくるかもしれないと楽しみにしていました。そんなふしぎな卵から生まれたふしぎな生き物「メロウ」。この子はどの生物とも違うようで、女の子はメロウのことをもっと知ろうと観察日記をつけることに…。

『みんながたのしくなる影絵の世界 1』
 つくってみよういろいろな影の形』

ナカ影絵人形劇団みんわ座／監修・著
 こどもくらぶ編
 六耀社



皆さんは、影絵あそびを知っていますか。影絵とは、自分や他人と一緒に、自分の体や手を色々な形に組み合わせたものや身近な物を、太陽やろうそく・電球などの光を使って、スクリーンに映し出した影を見て遊びです。この本は、そんな色々な影の作り方が書いてあります。最後には、手で作った影絵劇の役割分担やアドバイスなどを知ることができ、自分で実際にやってみてはいかがですか？

『料理しなんしょ』
 コッペとオサジのおいしい12か月』
 まるもとただゆき／作
 こがしわかおり／絵
 偕成社



ひとりで留守番をしていたコッペは、「料理しなんしょ」と書かれた古ぼけた本を見つけました。「しなんしょ(指南書)」とは、なにをどうしたらいいかを教えてくれる本のこと。なにでもできなくても、だいじょうぶ。お湯を沸かすところからすすんでいけば、12月にはパーティーができるうでまえに！ たのしくておいしい、料理のおはなしです。

『うちゅうはきみのすぐそばに』
 いわや けいすけ／文
 みねお みつ／絵
 福音館書店



絵本の中で男の子の手をはなれた風船がどンドン空に上がっていきます。ピルの高さ、鳥の飛んでいる高さ、見える景色はどンドン変わります。雲の中、雲の上、そして地上から100メートル。ここが地球と宇宙のさかいめです。「うちゅう」は遠いところのようですが、私たちのすぐ近く、私たちの暮らす世界からつながったところにあることが感じられる絵本です。